



付録

- 付録 A : サポートされる IMM 機能 / ポリシー (1 ページ)
- 付録 B : 変換オプション (5 ページ)
- 付録 C : プロキシ設定 (10 ページ)
- 付録 D : サンプル使用例 (12 ページ)
- 付録 E : フィードバックの送信 (14 ページ)
- 付録 F : テクニカル サポート (15 ページ)

付録 A : サポートされる IMM 機能 / ポリシー

このセクションでは、IMM 移行ツールでの変換がサポートされている機能のリストと、Cisco UCS Manager と Intersight 間のポリシーマッピングを示します。

UCS Manager 機能力 カテゴリ	ソース UCS Manager の機能名	同等の IMM ポリシー
ポート ロール	アプライアンス ポート	ポート ポリシー
	アプライアンス ポートチャンネル	ポート ポリシー
	FCoE アップリンク ポート	ポート ポリシー
	FCoE アップリンク ポートチャンネル	ポート ポリシー
	LAN アップリンクポート	ポート ポリシー
	LAN アップリンク ポートチャンネル	ポート ポリシー
	SAN ユニファイドポート	ポート ポリシー
	SAN アップリンクポート	ポート ポリシー
	SAN アップリンク ポートチャンネル	ポート ポリシー
	サーバ ポート	ポート ポリシー
	FC ストレージ ポート *10	ポート ポリシー
	SAN ストレージポート *10	ポート ポリシー
ファブ リック 構成 *1	アプライアンス VLAN	VLAN ポリシー
	QoS システム クラス	システム QoS ポリシー
	VLAN グループ	イーサネット ネットワーク グループ ポリシー
	VLAN *2	VLAN ポリシー
	VSAN	VSAN ポリシー
	ストレージ VSAN *10	VSAN ポリシー
ファブ リック ポリ シー *3	アプライアンス ネットワーク制御ポリシー	イーサネット ネットワーク制御ポリシー
	UDLD リンク ポリシー	リンク制御ポリシー

UCS Manager 機能カ テゴリ	ソース UCS Manager の機能名	同等の IMM ポリシー
Admin	通信サービス *4	SNMP ポリシー
	構成	Intersight の組織
	Syslog *5	Syslog ポリシー
	タイムゾーン管理	NTPポリシー
	MACアドレステーブルエージング	スイッチ制御ポリシー
	VLAN ポート数の最適化	スイッチ制御ポリシー
	インバンド プロファイル VLAN グループ	イーサネット ネットワーク グループ ポリシー
	インバンド プロファイル ネットワーク	IMC アクセスポリシー
	インバンド プロファイル IP プール名	IMC アクセスポリシー
	FC アップリンク トランキング	VSAN ポリシー
	DNS *6	ネットワーク接続ポリシー

UCS Manager 機能カ テゴリ	ソース UCS Manager の機能名	同等の IMM ポリシー
サー バー ポリ シーと シャ ーシ ンポ リシー	BIOS ポリシー	BIOS ポリシー
	起動ポリシー	ブートポリシー iSCSI スタティック ターゲット ポリシー
	ディスクグループポリシー	ストレージポリシー
	IPMI アクセス プロファイル	IPMI over LAN ポリシー
	iSCSI アダプタ ポリシー	iSCSI アダプタ ポリシー
	iSCSI ブート ポリシー	iSCSI ブート ポリシー
	KVM 管理ポリシー	仮想 KVM ポリシー
	ローカルディスク構成ポリシー *7	ストレージポリシー、SDカードポリシー
	QoS ポリシー	イーサネット QoS ポリシー/FC QoS ポリ シー
	Serial over LAN ポリシー	Serial over LAN ポリシー
	サービス プロファイル	サーバプロファイル
	サービス プロファイル テンプレート *8	サーバプロファイル テンプレート
	保管プロファイル (Storage Profiles)	ストレージポリシー
	vMedia ポリシー	仮想メディア ポリシー
	vNIC / vHBA 配置ポリシー *9	LAN 接続ポリシー / SAN 接続ポリシー
	イーサネット アダプタ ポリシー	イーサネット アダプタ ポリシー
	フロー制御ポリシー	フロー制御ポリシー
	LACP ポリシー	リンク集約ポリシー
	LAN 接続ポリシー	LAN 接続ポリシー
	リンク プロトコル ポリシー	スイッチ制御ポリシー
	マルチキャスト ポリシー	マルチキャストポリシー
ネットワーク制御ポリシー	イーサネット ネットワーク制御ポリシー	
ファイバ チャンネル アダプタ ポリシー	ファイバ チャンネル アダプタ ポリシー	
SAN 接続ポリシー	SAN 接続ポリシー	

UCS Manager 機能カテゴリ	ソース UCS Manager の機能名	同等の IMM ポリシー
プール	IP プール	IPプール
	IQN サフィックス プール	IQNプール
	MAC プール	MAC プール
	WWNN プール	WWNN プール
	WWPN プール	WWPN プール
	サーバー プール *10	リソースプール

*1 : 通常の VLAN と統合

*2 : PVLAN には対応していません。

*3 : 通常のネットワーク制御ポリシーと統合

*4 : セッション/HTTP 設定は、Intersight 設定で定義されます。Telnet/SSH 設定はサポートされていません

*5 : 最大 2 つのリモート宛先サーバーのみをサポート

*6 : UCS Manager では、[管理] > [通信管理] > [DNS 管理] の下にあります。

*7 : ストレージポリシーに置き換わる

*8 : テンプレートの更新のみ : 初期テンプレートのサポートはありません (ただし、複製は可能です)

*9 : 配置は、次のマッピングで PCIe スロットに静的にマッピングされます。

- vCon 1 : スロット MLOM
- vCon 2 : スロット PCIe1
- vCon 3 : スロット PCIe2
- vCon 4 : スロット PCIe3

この配置は、変換の実行後に必要に応じて手動で調整できます。

*10 - IMM Transition Tool リリース 1.0.2 以降でサポート

付録 B : 変換オプション

IMM 移行ツールの convert_options.json ファイルにある変換オプションは次のとおりです。

1. **"convert_fabric_policies": true**

- フラグはデフォルトでは有効になっています。
- 有効にすると、以下が変換されます。
 - VLAN / VLAN グループ / VSAN
 - FI ポートの構成
 - UCS Manager ドメイン設定 (NTP、DNS、Syslog、SNMP、システム QoS、およびスイッチ制御ポリシー)

以下は、このフラグに関連する変換されたファブリック ポリシーのリストです。

- イーサネット ネットワーク制御ポリシー
- イーサネット ネットワーク グループ ポリシー
- フロー制御ポリシー
- リンク集約ポリシー
- リンク制御ポリシー
- マルチキャストポリシー
- ネットワーク接続ポリシー
- NTPポリシー
- ポート ポリシー
- SNMP ポリシー
- スイッチ制御ポリシー
- Syslog ポリシー
- システム QoS ポリシー
- VLAN ポリシー
- VSAN ポリシー

2. "convert_fabric_policies": true

- フラグはデフォルトでは有効になっています。
- 有効にすると、以下が変換されます。
 - BIOS ポリシー
 - 起動ポリシー
 - イーサネット アダプタ ポリシー
 - ネットワーク制御ポリシー

- QoS ポリシー
 - ファイバチャネルアダプタ ポリシー
 - インバンドプロファイル ネットワーク / IP プール名
 - IPMI アクセス プロファイル
 - iSCSI アダプタ ポリシー
 - iSCSI ブート ポリシー
 - vNIC/vHBA 配置ポリシー
 - 電源ポリシー
 - 電源制御ポリシー
 - ローカル ディスク構成ポリシー
 - Serial over LAN ポリシー
 - ファン制御ポリシー
 - KVM 管理ポリシー
 - vMedia ポリシー
- 以下は、このフラグに関連する変換された IMM ポリシーのリストです。
- BIOS ポリシー
 - ブート順序ポリシー
 - 証明書管理ポリシー
 - イーサネット アダプタ ポリシー
 - イーサネットネットワーク制御ポリシー
 - イーサネット QoS ポリシー
 - ファイバチャネルアダプタ ポリシー
 - ファイバチャネル ネットワーク ポリシー
 - ファイバチャネル QoS ポリシー
 - IMC アクセスポリシー
 - IPMI over LAN ポリシー
 - iSCSI アダプタ ポリシー
 - iSCSI ブート ポリシー
 - iSCSI スタティック ターゲット ポリシー

- LAN 接続ポリシー
- ローカル ユーザ ポリシー
- 電源ポリシー
- SAN 接続ポリシー
- SD カード ポリシー
- Serial over LAN ポリシー
- ストレージ ポリシー
- 温度ポリシー
- 仮想 KVM ポリシー
- 仮想メディア ポリシー

3. **"use_ucsm_domain_name_for_unnamed_policies": true**

- フラグはデフォルトでは有効になっています。
- UCS Manager に存在しない次のポリシーは、Intersight の UCS Manager ドメイン名に設定されます。
 - VLAN / VSAN
 - ポート ポリシー

4. **"default_policies_name": "default"**

このオプションは、オプション「use_ucsm_domain_name_for_unnamed_policies」が false に設定されている場合にのみ使用されます。

このような場合、名前のないポリシーの名前として「default_policies_name」値が使用されます。

5. **"use_ucsm_domain_name_for_target_org_for_fabric_objects": "true"**

- フラグはデフォルトでは有効になっています。
- 有効にすると、VLAN / VSAN / ポート ポリシーなどのファブリック ポリシーが、UCS Manager ドメイン名と同じ名前の Intersight 組織に保存されます。

6. **"target_org_for_fabric_objects": "default"**

このオプションは、「use_ucsm_domain_name_for_target_org_for_fabric_objects」が false に設定されている場合にのみ使用されます。このような場合、「target_org_for_fabric_objects」値がこの組織の名前として使用されます。

7. **"convert_service_profiles": false**

- フラグはデフォルトでは無効になっています。

- サービスプロファイルの変換を有効にすると、すべてのサービスプロファイルが変換されます。
- 有効にすると、次の識別子が維持されない場合があります。
 - IP
 - MAC
 - IQN
 - UUID
 - WWxN

8. "force_separate_vlan_policies": false

- フラグはデフォルトでは無効になっています。
- **false**に設定されている場合、必ずしも単一のVLANポリシーが作成されるわけではありません。これは、個別のポリシーの作成が強制されないことを意味します。UCS ManagerのVLAN設定が両方のファブリックで異なる場合、このフラグに関係なく、個別のポリシーが作成されます。

9. "force_separate_vsan_policies": false

- フラグはデフォルトでは無効になっています。
- **false**に設定されている場合、必ずしも単一のVSANポリシーが作成されるわけではありません。これは、個別のポリシーの作成が強制されないことを意味します。UCS ManagerのVSAN構成が両方のファブリックで異なる場合、このフラグに関係なく、個別のポリシーが作成されます。

10. "force_separate_vsan_policies": false

- フラグはデフォルトでは無効になっています。
- **false**に設定されている場合、必ずしも単一のポートポリシーが作成されるわけではありません。これは、個別のポリシーの作成が強制されないことを意味します。UCS Managerのポート構成が両方のファブリックで異なる場合、このフラグに関係なく、個別のポリシーが作成されます。

11. "use_ucsm_domain_name_for_root_org": true

- フラグはデフォルトでは有効になっています。
- これは、UCS Managerの「ルート」組織が、UCS Managerドメイン名にちなんで名付けられた組織に変換されることを意味します。

12. "root_org_name": "default"

このオプションは、オプション「`use_ucsm_domain_name_for_root_org`」が `false` に設定されている場合にのみ使用されます。このような場合、「`root_org_name`」の値がこの組織の名前として使用されます。

13. "keep_nested_org_path_in_org_name": true

- フラグはデフォルトでは有効になっています。
- 有効にすると、ネストされた組織パスが組織名に保持されます。それ以外の場合、子組織名のみが保持されます。

14. "tag_converted_objects": true

- フラグはデフォルトでは有効になっています。
- 有効にすると、タグは Intersight で作成されたオブジェクトに関連付けられます。

15. "default_password":

デフォルトのパスワード値は、IMM 移行ツールのインストール中に提供されます。このパスワードは、変換された仮想メディア、iSCSI などの UCS Manager ポリシーの既存のパスワードの代わりに使用されます。これらを取得する方法がないためです。

16. "use_vcon_placement_info_for_vnic_vhba_order": false

- フラグはデフォルトでは無効になっています。
- 有効にすると、vCon 配置が考慮され、vHBA および vNIC PCI の順序が決定されます。
- vCon 配置は、次の静的スロット マッピングに変換されます。vCon1: "MLOM"、vCon2: "1"、vCon3: "2"、vCon4: "3"

付録 C : プロキシ設定

IMM 移行ツールには、UCS Manager ドメインおよび Intersight との接続を確立する際に、プロキシ設定を有効または無効にするオプションが用意されています。要件のシナリオに応じてプロキシ設定を変更できます。

シナリオ 1 : UCS Manager 接続のみのプロキシ設定

[UCSM の追加 (Add UCSM)] ページで、UCS ドメインに接続するためだけにプロキシ設定を有効にする必要がある場合は、次の手順を実行します。

1. 右上隅の歯車アイコンの下にある [設定 (Settings)] をクリックします。
2. [プロキシを有効にする (Enable Proxy)] を切り替えてオンにします。
3. [プロキシホスト名 (Proxy Hostname)] または [IP] を入力します
4. プロキシポート番号を入力します。

5. プロキシ設定で認証が必要な場合は、**[認証 (Authentication)]** を切り替えてオンにするか、手順 8 に進みます。
6. ユーザ名を入力します。
7. パスワードを入力します。
8. **[保存 (Save)]** をクリックします。
プロキシ設定が保存されます。
9. **Cisco Intersight マネージドモード移行ツールの操作**で説明されている手順に従って、準備状況レポートを生成します。
10. **[設定 (Settings)]** セクションに移動し、**[プロキシを有効にする (Enable Proxy)]** を切り替えてオフにします。
11. **Cisco Intersight マネージドモード移行ツールの操作**で説明されている手順に従って、変換されたオブジェクトを Intersight にプッシュします。

シナリオ 2: Intersight 接続のみのプロキシ設定

[Intersight へのプッシュ (Push to Intersight)] ページで、Intersight に接続するためののみプロキシ設定を有効にする必要がある場合は、次の手順を実行します。

1. 右上隅の歯車アイコンの下にある **[設定 (Settings)]** をクリックします。
2. **[プロキシを有効にする (Enable Proxy)]** を切り替えてオンにします。
3. **[プロキシホスト名 (Proxy Hostname)]** または **[IP]** を入力します
4. プロキシポート番号を入力します。
5. プロキシ設定で認証が必要な場合は、**[認証 (Authentication)]** を切り替えてオンにするか、手順 8 に進みます。
6. ユーザ名を入力します。
7. パスワードを入力します。
8. **[保存 (Save)]** をクリックします。
プロキシ設定が保存されます。
9. **[次へ (Next)]** をクリックします。
10. **Cisco Intersight マネージドモード移行ツールの操作**で説明されている手順に従って、変換されたオブジェクトを Intersight にプッシュします。
11. **[設定 (Settings)]** セクションに移動し、**[プロキシを有効にする (Enable Proxy)]** を切り替えてオフにします。

シナリオ 3 : UCS Manager および Intersight 接続のプロキシ設定

IMM 移行ツールにログインしたら、次の手順を実行してプロキシ設定を有効にします。

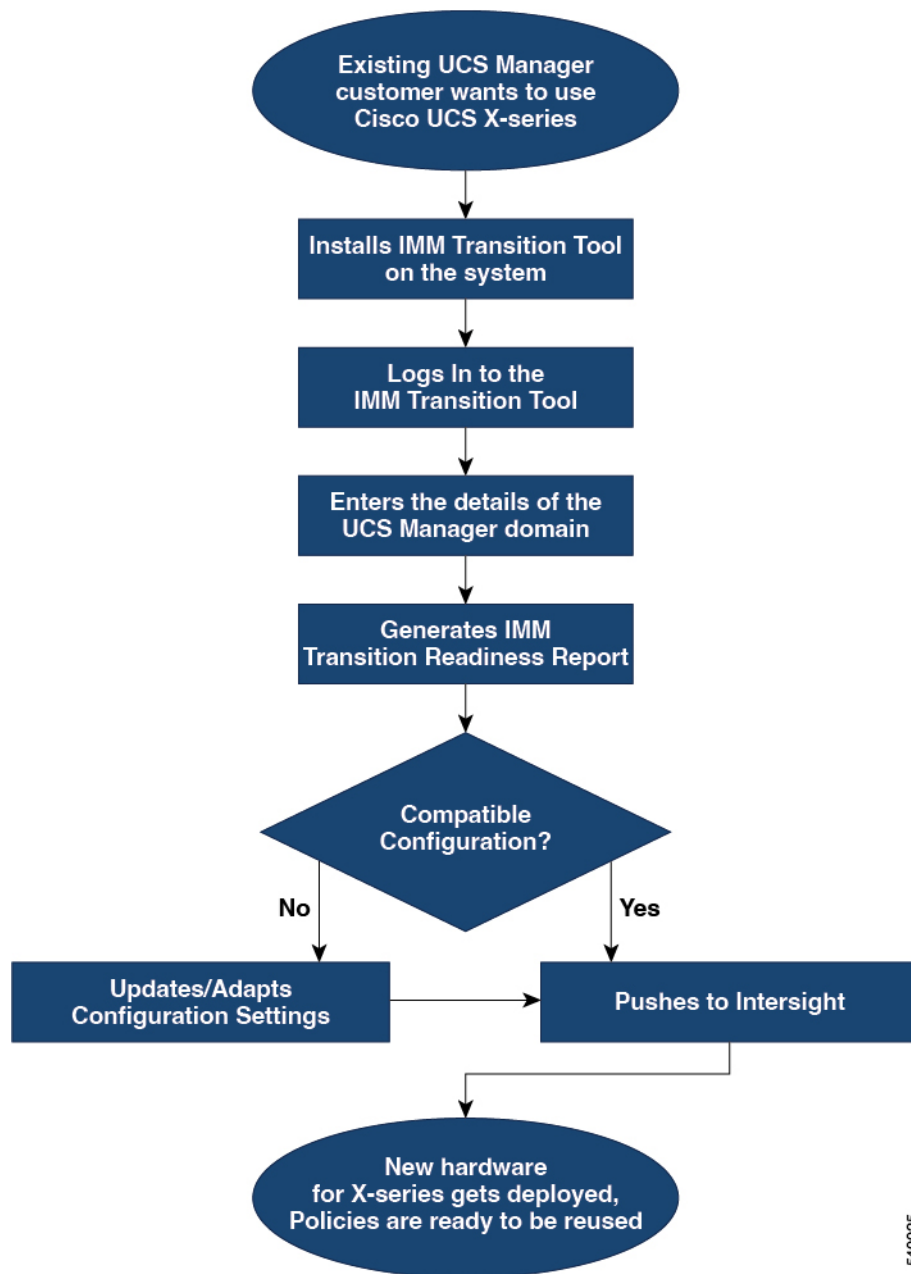
1. 右上隅の歯車アイコンの下にある [設定 (Settings)] をクリックします。
2. [プロキシを有効にする (Enable Proxy)] を切り替えてオンにします。
3. [プロキシホスト名 (Proxy Hostname)] または [IP] を入力します
4. プロキシポート番号を入力します。
5. プロキシ設定で認証が必要な場合は、[認証 (Authentication)] を切り替えてオンにするか、手順 8 に進みます。
6. ユーザ名を入力します。
7. パスワードを入力します。
8. [保存 (Save)] をクリックします。
プロキシ設定が保存されます。

付録 D : サンプル使用例

UCS X シリーズの展開の拡張

ファブリック インターコネクトは UCS X シリーズをサポートする際、Intersight 管理モードで動作します。Cisco UCS Manager を使用していて、UCS X シリーズを使用する場合は、IMM に移行する必要があります。この移行

- 既存のサービス プロファイル テンプレートを Intersight に拡張します。
- ブート、BIOS、LAN/SAN 接続など、関連するサーバー ポリシーを自動的に変換します。
- VLAN / VSAN、ポート構成などのファブリック構成を変換します。



次の手順を実行して、既存の UCS Manager ドメインオブジェクトを Intersight オブジェクトに変換します。

始める前に

システムは、[前提条件 \(Prerequisites\)](#) セクションに記載されている前提条件を満たしている必要があります。

ステップ 1 システムに Cisco IMM 移行ツールをインストールします。

Cisco Intersight マネージドモード移行ツールのインストールに記載されているインストール手順に従います。

ステップ2 IMM 移行ツールにログインします。

ステップ3 UCS Manager ドメインの詳細を入力します。

ステップ4 準備状況レポートを生成して、移行の互換性を確認します。

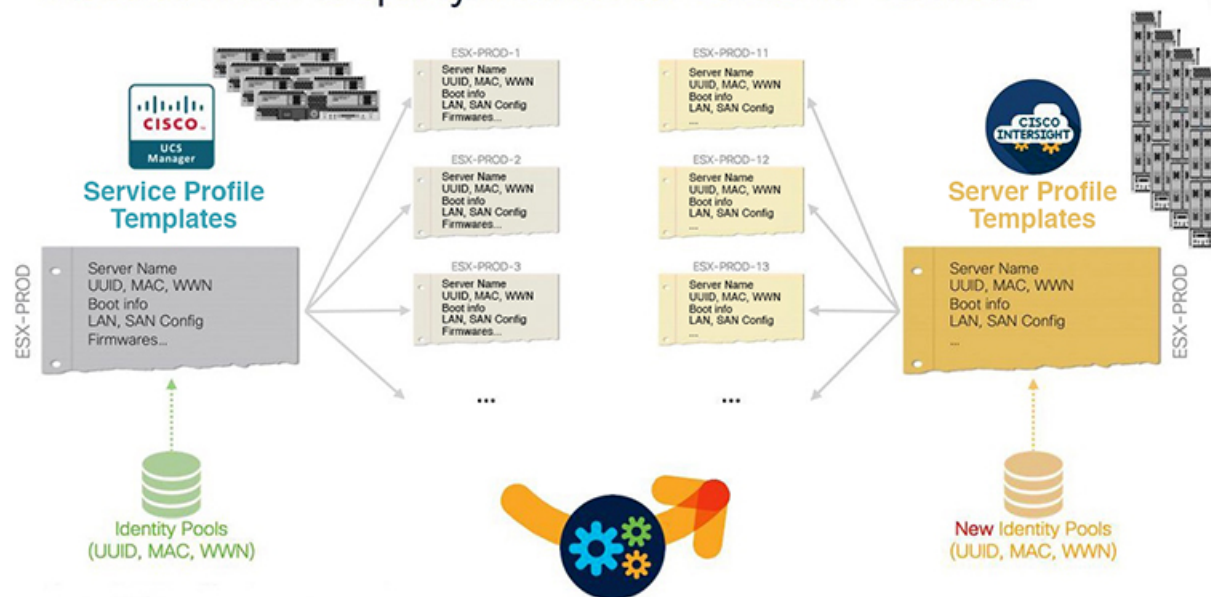
ステップ5 a) 互換性がない場合は、構成設定を更新します。

b) 互換性がある場合は、変換された構成を Intersight にプッシュします。

次のタスク

新しいハードウェアが展開されます。UCS Manager ドメインのソフトウェア構成、および既存のポリシーを再利用する準備ができています。どこからでも Cisco UCS X シリーズシステムを監視し、サーバー全体でポリシーベースの管理を実行できるようになりました。

Accelerate deployments of UCS X-Series



この移行を実行する手順については、「[Cisco Intersight マネージドモード移行ツールの使用](#)」を参照してください。

付録 E: フィードバックの送信

右上隅にある [フィードバック (Feedback)] を使用して、ツールに関するフィードバックを提供するか、不足している機能に関する情報を提供します。

付録 F : テクニカル サポート

サポートが必要な場合は、ログファイルをテクニカル チームと共有できます。

クエリを送信するには、次の手順を実行します。

1. すべての遷移レコードを表示するリスト ビューに移動します。
2. テクニカル サポートが必要な移行レコードまでスクロールします。
3. レコードに対して[...] をクリックします。
4. [ログのダウンロード (Download Logs)] をクリックします。
5. ログファイルをコンピュータに保存します。
6. 保存したログファイルを電子メールに添付し、クエリ/フィードバックを含む電子メールを imm-transition-feedback@cisco.com グループに送信します。
<mailto:imm-transition-feedback@cisco.com>

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。